

ヨーロッパにおける林業経営

中部ヨーロッパでは、農家林家が健在。

農家は酪農を中心に穀物等を生産している。そのトラクターは農業に100日、そして、アタッチメントを取り替え、林業用に100日から150日を使っている。それで、稼働率を高めている。

木材のカスケード利用のポイントはチップにある。

「木を一本一本まるまる使いつくす」ことが重要。

具体的には木材を製材や合板だけでなく、製紙原料や木質ボード、木質バイオマスエネルギーとしての利用である。

欧州では地域熱暖房などのインフラ整備が進んでおり、電熱供給による発電に加え、石炭混焼による発電も普及している。これは、再生可能エネルギー電力の高値での固定買い取り価格制度が後押しをしているから。一方、規模によって価格差があっただけという論もあり、地域単位の中小規模での優位性が出てくることも想定される。林地残材等もこれらの有効利用資源として位置づけられ制度設計なり技術開発も進めていくことも重要。

未来を創るのはあなた

2010年からの10年間は、林業を取り巻く重要な時期にある。

これから日本林業は間違いなく新しい局面を迎える。新しい制度設計が始まっている。そのため、現場の声が必要。山林林業を取り巻く環境には大変多くの課題があり、解決しなければならぬことが多い。議論を進めていくべき。

市場環境は、人口の動態変化から否応なしに変わっていく。そのなかで、求められることは積極的かつ冷静な実践である。議論を深め、幅広く議論することで日本が先進国型林業に変貌していく。

